

- 10 カルデアは略奪され、これを略奪する者はみな、満ち足りる。
—【主】のことば。
- 11 わたしのゆずりの地を略奪する者たちよ。おまえたちは楽しみ、喜び躍り、
打穀する雌の子牛のようにはしゃぎ、荒馬のようにいなくなが、
- 12 おまえたちの母はひどく恥を見、おまえたちを産んだ者は屈辱を受ける。
見よ。彼女は国々のうちの最後のものとなり、荒野となり、砂漠と荒れた地となる。
- 13 【主】の御怒りによって、そこに住む者はなく、ことごとく廃墟と化す。
バビロンの近くを通り過ぎる者はみな呆気にとられ、そのすべての打ち傷を見て
嘲笑する。
- 14 すべて弓を引く者よ。バビロンの周りに陣備えをし、これを射よ。矢を惜しむな。
彼女が【主】に対して罪を犯したからだ。
- 15 その周りで、とき声をあげよ。彼女は降伏する。
その柱は倒れ、その城壁は壊れる。これこそ主の復讐だ。彼女に復讐せよ。
彼女がしたとおりに、これにせよ。
- 16 種を蒔く者や、刈り入れの時に鎌を取る者を、バビロンから断ち切れ。
虐げる者の剣を避けて、人はそれぞれ自分の民のもとに帰り、
自分の土地へ逃げて行く。」

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会

2022年7月17日(日)

礼拝メッセージノート

「バビロンへの預言 I ~異邦人への裁き⑦」

| エレミヤ書講解-91 エレミヤ書50:1~16 小野寺望 牧師

【エレミヤ書 50章】

- 1 【主】が預言者エレミヤを通して、バビロンについて、すなわちカルデア人の地について語られたことば。
- 2 「国々の間に告げ、旗を掲げて知らせよ。隠さずに言え。
『バビロンは攻め取られた。ペルは辱められ、メロダクは打ちのめされた。
その像は辱められ、その偶像は打ちのめされた。』
- 3 まことに、北から一つの国がそこに攻め上り、その地を荒れ果てさせた。
そこには住むものもない。人から家畜に至るまで逃げ去った。
- 4 その日、その時—【主】のことば— イスラエルの民もユダの民も、ともに
やって来る。彼らは泣きながら歩みつつ、その神、【主】を尋ね求める。
- 5 彼らはシオンを求め、その道に顔を向けて言う。『さあ、私たちは【主】に連な
ろう。忘れられることのない永遠の契約によって』と。
- 6 わたしの民は、迷った羊の群れであった。その羊飼いたちが彼らを迷わせ、
山々へ連れ去った。彼らは山から丘へと行き巡り、休み場も忘れた。
- 7 彼らを見つめる者はみな彼らを食らい、彼らの敵は言った。
『私たちに責めはない。彼らが、義の住まいである【主】、彼らの先祖の望みで
あった【主】に対して 罪を犯したためだ』と。
- 8 バビロンの中から逃げ、カルデア人の地から出て行け。群れの先頭に立つやぎの
ようになれ。
- 9 見よ。わたしは、大国の集団を奮い立たせ、北の地からバビロンに攻め上らせる。
彼らはこれに向かって陣備えをし、バビロンはそこから攻め取られる。彼らの矢は
熟練した勇士の矢のようで、空しくは帰らない。

(4ページへ続く)

◆ はじめに

1. 復習：異邦人諸国の計画 過去・現在・未来

◎エジプトで語られた周辺諸国への言葉（43～51章）

- ◆異邦人への預言：エジプト、ペリシテ、モアブ、アンモン、エドム、ダマスコ・ケダルとハルホル、エラム
バビロンに関する預言 50：1～51：64
- ◆さばきの有無：多かれ少なかれ例外なく、反ユダヤ的な態度の責任は問われる。
*イシュマエルやエサウ、ロトの娘などイスラエルの近親となる民族は多くの祝福と共に、それに応答する大きな責任が伴う。
- ◆滅亡の時期：中間時代で消滅する⇨今日も存在し、大患難時代で消滅する
- ◆千年王国にて：回復の約束がある⇨荒れ果てたまま。

◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール | バビロンの行いと裁き

*このメッセージは、バビロンへの預言から、神の計画の詳細を学ぶものである。

I バビロンに対する裁きの宣告（1～10）

1. 神からエレミヤへの命令

- (1) バビロンが公に辱められることを諸国に向かって宣言するように。
*エレミヤが語る預言のことばは、神のことばを代弁したものである。
- (2) バビロンは「神の器」として用いられ、預言者たちを通して立ち返りのチャンスを与えられたが、それを活かすことはなかった。
*アッシリヤ、南王国ユダ、またエジプトなどを裁く器

2. 預言の内容

- (1) バビロンは捕らえられ、国の守り神ベル（メロダクとも呼ばれる）も辱められる。
 - ①他の箇所同様に比喩的表現
*例：アンモン人とミルコムの捕囚 49：3、モアブ人とケモシュの捕囚 48：7
- (2) 時系列について：この預言は、メド・ペルシャ※によるバビロン征服と関連。
 - ①しかし全面的な成就是、終末時代に起こる。 *メディヤとペルシャの連合軍である。

〈預言が終末に成就する根拠〉

3 まことに、北から一つの国がそこに攻め上り、その地を荒れ果てさせた。

そこには住むものもない。人から家畜に至るまで逃げ去った。

- ①敵は北から攻めて来ている点、この時代の出来事とくい違ふ。9節も同様
*バビロンを倒したペルシャ（今日のイラン）は、バビロンの東に位置する。
- ②ペルシャのクロス王がバビロンを征服した時（前539年）、彼はそこを破壊しなかった。

この先の預言でも、また人々に盛んに逃げるように宣告している。

*実際には、誰もその町から逃げたりしなかった。

4 その日、その時——【主】のことば—— イスラエルの民もユダの民も、ともにやってくる。 彼らは泣きながら歩みつつ、その神、【主】を尋ね求める。

5 彼らはシオンを求め、その道に顔を向けて言う。『さあ、私たちは【主】に連なろう。忘れられることのない永遠の契約によって』と。

③この預言によると、バビロンが征服されると、イスラエルとユダの民は共にシオンに帰還し、「とこしえの契約」（新約）を【主】と結ぶ。

*バビロン捕囚からの帰還ではこのようなことは起こらない。

(3) 以上の点から、この預言は黙17～18章に成就すると理解するのが相応しい。

II バビロンの滅び（11～16節）

1. ゆずりの地を略奪するもの

- (1) 「ゆずりの地」：イスラエルに約束された土地を指す。
*バビロンにも、パレスチナアラブ人にも、神は契約を結ばず、土地を与えていない。
- (2) バビロンはイスラエルの民を滅ぼし、大喜びしながら、その地（わたしの相続地）を略奪した。
- (3) その傲慢の罪ゆえに、神は必ずバビロンを滅ぼし、そこを廃墟にする。
- (4) この預言は、バビロンの戦いと裁きの様子を描写的に表現する。

2. 異邦人諸国の対応

12 …彼女は国々のうちの最後のものとなり、 荒野となり、砂漠と荒れた地となる。

13 【主】の御怒りによって、そこに住む者はなく、 ことごとく廃墟と化す。

バビロンの近くを通り過ぎる者は みな呆氣にとられ、 そのすべての打ち傷を見て 嘲笑する。

- (1) バビロンに住む外国人は、自分の国に逃げてゆく。
*神の重い裁きとその町に下り、巻き添えになるのを恐れたために。
- (2) 徹底的にバビロン（彼女）に襲いかかる異邦人を召し出している。
- (3) これらは【主】の御怒り（怒りの杯 49：12）
- (4) この点からも、この預言は究極的には大患難時代の大バビロンの最期である。

◆ まとめ：バビロンの行いと裁き

1. 南王国ユダを裁くの器：神は彼らの罪の性質を用いた。

*大患難時代にもう一度存在し、大きな山のようにイスラエルの前に立ちはだかる。

2. 罪の報い：この時代の滅びと、大患難時代における決定的な滅び。

*サタン（反キリスト）との繋がりは、悲劇的な結果を伴う。

3. クリスチャンの適用：立ちはだかる大きな山を、平地とされるお方